

第1章 生命を支える生物多様性

第1章

生命を支える生物多様性

- 1 生物多様性とその重要性
- 2 いすみ生物多様性戦略策定の背景
- 3 いすみ生物多様性戦略の位置づけと対象



港の朝市

1 生物多様性とその重要性

地球上には、人が知らない生物も含め、3,000万種以上ともいわれる多種多様な生物が生きています。たくさんの生物の種(しゅ)は、たくさんの個体、そしてたくさんの細胞や遺伝子からできています。

また、たくさんの生物種によって豊かな森や海の生態系がもたらされます。このような遺伝子から種、そして生態系のレベルまで、

たくさんの生物・生命の変異・変化、そして様々な生物間のつながりと関係の全てを「生物多様性」と呼んでいます。

生物多様性の一員である私たち人間も、毎日食べる米や野菜、肉や魚から、木材や医薬など生物多様性の恵みで暮らし、きれいな水や空気、さらには心の安らぎや芸術・文化も生物多様性の恵みによるものです。



港の朝市 おいしい農産物も農家の努力と豊かな生物多様性のたまもの

いすみんと学ぼう①

いすみ生物多様性戦略って何ですか？

いすみ市は、海から山までさまざまな自然環境があり、とてもたくさんの動植物が見られる生物多様性の宝庫となっています。

このようないすみ市の素晴らしい生物多様性をきちんと知って、保全・再生し、子どもたちの未来のためにその豊かな恵みを伝えていかなければなりません。いすみ市として、その道筋を定めたものが「いすみ生物多様性戦略」です。

何度も市民との話し合いの会を開き、またアンケートなどで集めた皆さんからの多くのご意見をもとに、専門家やいろいろな立場の人が知恵を集め、検討に検討を重ねてつくりました。

いすみ市のだれもが生物多様性の大切さを意識して行動するための手引きになるとうれしいです。



2 いすみ生物多様性戦略策定の背景

生態系の破壊と地球温暖化が急激に進む地球で、生物多様性の保全は緊急の課題となっています。

1) 我が国のまた、世界の必然的な要求です。

1992年、ブラジルで国連環境開発会議が開催されました。この会議のとき、地球の温暖化防止と生物多様性の保全が全世界の重要課題であることが認識され、「生物多様性条約」が調印開始されました。日本はこれに1993年に締約し、1995年10月に生物多様性国家戦略が策定されました。そして2008年3月、千葉県は日本最初の地域戦略「生物多様性ちば県戦略」を策定しました。2010年10月名古屋市で、179の国や関係機関が集い、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催され、生物多様性保全への新たな世界目標である「愛知目標」を含む「戦略計画2011-2020」や、「名古屋議定書」などが採択されました。

我が国では、2008年6月に国会で「生物多様性基本法」が制定され、地方公共団体に施策を策定し実施する義務があると定められました。また、2012年9月には第5次の「生物多様性国家戦略2012-2020」が閣議決定されています。

2) いすみ市の将来を考えるために重要な指針となります。

「いすみ生物多様性戦略」は、まさに地域づくりのための戦略で、いすみ市の未来を拓くための施策です。少子高齢化が進み、労働力人口が減少し続けているいすみ市が、これからどんなビジョンを持って進むのかを具体的に市民の皆さんと共有する必要があります。

いすみ市は、2008年に「夷隅川流域生物多様性保全協議会」を設立し3年間活動しました。2010年には「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」に加盟し、2012年にはいすみ市の豊かな自然環境と潜在的な地域資源を生かした地域振興・活性化を目指して、「自然と共生する里づくり連絡協議会」を立ち上げて活動しています。

私たちはこれまでいすみ市の豊かな生物多様性は当たりまえとあってきまして。しかし近年、農林漁業の後継者不足などによる里山里海の管理の衰退や野生鳥獣害、外来生物の増加、希少種保護などさまざまな課題を抱えており、いすみ市における生物多様性地域戦略の策定が期待されていました。



コハクチョウ 関東で最南端の定期渡来地で毎年100羽以上が飛来する



岩船地蔵尊 日本岩船三地蔵尊の一つ。水産庁「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」

いすみんと学ぼう②

「4つの危機」っていすみ市も何か危ないのですか？

約40億年といわれる地球生命の歴史、その長い年月で育まれた生物多様性が、私たち人間の活動によって猛スピードで損なわれており、現在「生物多様性の4つの危機」が深刻な問題となっています。



第1の危機 「開発など人間活動による危機」

開発など人間活動により、自然環境が損なわれて地域本来の生きものが減少しています。貴重な生物の宝庫である夷隅川河口干潟の荒廃も進んでいます。

第2の危機 「自然に対する働きかけの縮小による危機」

人の手で管理される里山里海には豊かな生物多様性が保たれてきました。しかし近年は、耕作放棄地や放置された林地が拡大しています。そのような所はイノシシやシカのすみかとなり、まわりの作物や樹木を荒らす農林業被害が急増しています。

第3の危機 「人間により持ち込まれたものによる危機」

ゴミをはじめ大量の化学物質の排出による環境汚染、また、海外から持ち込まれた外来生物が地域本来の生物多様性を劣化させる状況が見られます。いすみ市ではアライグマやキョンが増え、その拡大は人間生活を苦しめ、見過ごせなくなってきました。

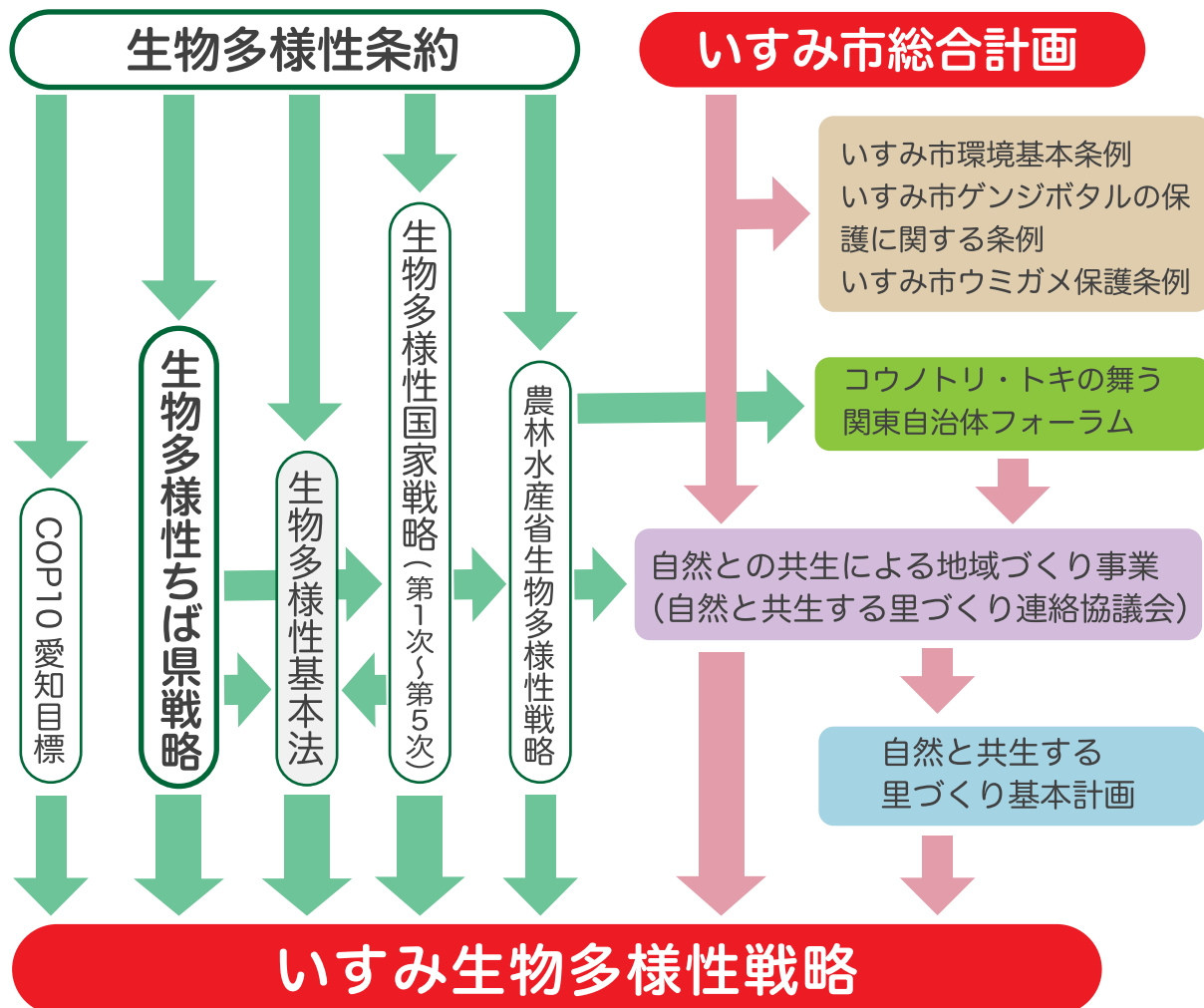
第4の危機 「地球環境の変化による危機」

近年、「記録的な」「観測史上初」といった、大きな台風や大雨、高温など異常気象が多発しています。いすみ市においても温暖化や異常な気象の影響が表れています。

3 いすみ生物多様性戦略の位置づけと対象

1) 戦略の位置づけ

この戦略と国や県、及びいすみ市の関係法令、諸施策などとの関連・位置づけは下図のとおりです。



いすみ人と学ぼう③

愛知目標って何ですか？

2010年10月に愛知県名古屋市で、生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)が開催されました。そこで、生物多様性条約を結んでいる179の国や機関・NGO等が集い、5つの戦略目標と20の個別目標が定められました。この世界の未来のための約束が愛知目標です。

この愛知目標は、世界レベルの目標ですが、国や政府だけでなく、いすみ市などの地方自治体や企業、市民団体など、みんなでこの目標達成に向けて活動することが求められているのです。



2) 戦略の対象

本戦略の対象は、いすみ市全域です。自然環境において人々のくらしで常にかかわる空間領域は「里山里海」とよばれます。いすみ市の里山里海は、器械根の海から、海岸、平野、丘陵などの人々の生活にかかわる全ての地域であり、そこは市街地や里の集落から田畑、川沼、森林などの多様な土地環境のモザイク

とそのつながりにより生物多様性豊かな生態系が保たれてきました。

このような里山里海は、人・自然・文化が一体となって調和・共存し、資源・エネルギーを循環・自立させる持続可能な生態系のモデルでもあります。

いすみんと学ぼう④

生態系サービスってどんなサービスですか？

私たちは、多種多様な生物及び生態系からさまざまな恩恵を受けています。そしてこの「自然の恵み」は、「生態系サービス」とよばれ、以下の4つに整理されています。

◆供給サービス

供給サービスとは、食料や燃料から木材・繊維、薬品、さらには水まで、人々の生活の糧（かて）となる自然からもたらされるモノ資源です。山菜や魚介類は自然が育てていますし、農作物や家畜、水産養殖も豊かな生物多様性と健全な生態系のおかげです。

◆調整サービス

調整サービスとは、汚染された水や空気を浄化し、水の流れや気候を調節して土壌浸食や風水害などを抑制するなど、多様な生物から成る生態系がもたらす、私たちにとって清らかで安定した環境を保ってくれる作用のことです。

◆文化サービス

文化サービスは、私たちの精神や心に作用するサービスです。緑の森や清らかな水がもたらす美しい景観、生命を感じる草花や動物から虫の音まで、豊かな生物多様性は私たちの心を癒し、文化や芸術、また、自然とともに生きる信仰や技術を育んできました。

◆基盤サービス

基盤サービスとは、植物の光合成や動物の行動・代謝などに基づく窒素・栄養塩の循環、また、水の循環や土地の形成など他のサービスの基盤のシステムをもたらすサービスです。

私たちは、この生態系サービスが無料で無限に利用できると思って消費してきました。しかし、現在の大量生産と大量消費の生活を続けていくと生物多様性は失われて生態系サービスも損なわれ、今の私たちの生活は続けられなくなることがわかってきました。この生態系サービスを未来の人々が受け続けていくためには、その源となる地球の、また、いすみ市の生物多様性をしっかり保全していくことが必要です。

